

社会像など		施策	取組項目及び設定条件 (○：国のロードマップへ入、●：エネルギービジョン、・：その他)	2016年現在削減量 (2012年度比)	2030年削減量 (2012年度比)		進捗率
わたしたちの取組による削減	《家庭》 札幌型スマートライフスタイルが定着している社会	高断熱・高気密住宅の普及	《住宅の高断熱・高気密化》 ●戸建住宅・集合住宅の断熱性能が以下のとおりになると想定 従来住宅：18%、H4年基準：33%、H11年基準：27%、札幌次世代住宅基準ベーシック相当以上：27%	12万 t-CO2	46万 t-CO2		27%
		省エネ・再エネ機器の普及	《高効率給湯・暖房機器への更新》 ●約80%の給湯機器が高効率機器、約71%の暖房機器が高効率機器（いずれも燃料電池・コジェネは除く）	8万 t-CO2	68万 t-CO2	124万 t-CO2	10%
			《分散電源・再生可能エネルギーの導入》 ●燃料電池は戸建住宅の約20%に導入（60,000台） ※同じ熱量を得るために投入するエネルギーは1.6倍になる（-2万tCO2）、同時に電力が得られる（13万tCO2）ことを考慮して算出 ●戸建住宅の約35%、集合住宅の約9%に太陽光発電設備導入（発電量の50%相当を自家消費分＝省エネとして削減量に計上、残りは売電） ・再生可能エネルギーによる発電分の売電、省エネルギーの推進による電力排出係数の改善	4万 t-CO2	36万 t-CO2		
			《HEMSの導入》 ○約40%の世帯に見える化機能付きHEMS、約5%の世帯に制御機能付きHEMSが導入 補助件数累計401件→北ガスが今後10,000件に普及目標 ○HEMSの導入により5～10%消費電力量が削減	0.02万 t-CO2	6万 t-CO2		
			《照明・家電の効率改善（技術革新）》 ・電力消費量約10%削減	不明	14万 t-CO2		
	省エネ行動の実践	《省エネ行動の実践》 ●50%の世帯が暖房を1℃下げる取組を実施（2012年から2016年で9.8%減） ●60%の世帯が約15%（2012年夏の節電キャンペーンの実績）の節電を実施（2012年から2016年まで6%減）	18万 t-CO2	32万 t-CO2		57%	
	小計				43万 t-CO2	① 202万 t-CO2	21%
	《産業・業務》 環境保全と経済成長が両立している社会	省エネ・再エネ設備の普及	《建築物の外気性能向上》 ○熱エネルギー消費量が約3%削減（半分程度進んでいると仮定）	不明	6万 t-CO2	47万 t-CO2	1%
			《分散電源の導入》 ●事業所において合計70,000kWのコジェネレーションが導入	0.57万 t-CO2	12万 t-CO2		
			《エネルギー機器の効率改善（技術革新）》 ○熱エネルギー消費量が約1%削減→半分程度達成されていると仮定 ○電気エネルギー消費量が約5%削減→半分程度達成されると仮定	不明	22万 t-CO2		
省エネ行動の実践	《分散電源・再生可能エネルギーの導入》（全量売電として、電力排出係数の改善にのみ寄与） ●太陽光発電が事業所の約9%に導入されている、市有施設400kW/年の増、未利用地2,000kW/年の増 ●小水力発電2カ所増設、地熱発電1カ所増設→いずれも現在見込みなし ・再生可能エネルギーによる発電分の売電、省エネルギーの推進による電力排出係数の改善	不明	7万 t-CO2				
省エネ行動の実践	《省エネ行動の実践》 ●50%の事業者が熱・電気エネルギーをそれぞれ年平均1%削減（基準年から18年間）→電力消費量の減少状況から。次の列は、単純に1.5倍した。	20万 t-CO2	49万 t-CO2		41%		
小計				20万 t-CO2	② 95万 t-CO2	21%	
《運輸》 環境に優しい交通体系が確立している社会	次世代自動車の導入	《次世代自動車への入れ替え》 ○約31%の自動車次世代自動車へと入れ替え ○各自動車の燃費が10～20%改善	6万 t-CO2	71万 t-CO2		9%	
	エコドライブの推進	《エコドライブの実践》 ○エコドライブの実践により燃費が10%改善 ○エコドライブの実践率が15%から乗用：25%、貨物：40%に上昇	0.44万 t-CO2	3万 t-CO2		14%	
	小計				7万 t-CO2	③ 74万 t-CO2	9%
《みどり》 豊かなみどりと共生している社会	みどりの活用	《木質バイオマスの活用》 ・熱供給事業での活用 ・バイオマスボイラーが500台導入（うち市有施設76台） ・ペレットストーブが10,000台導入→現行ペースでは、2023年に853台	3万 t-CO2	10万 t-CO2		32%	
	森林吸収	《森林吸収》 ・現在と同等の森林面積が保全されている	15万 t-CO2	(15万 t-CO2)		99%	
	小計				3万 t-CO2	④ 10万 t-CO2	32%
《廃棄物》 ごみの少ない資源循環型社会	ごみ減量・リサイクル促進	《廃棄物の減量》 ・スリムシティさっぽろ計画（改定版）で掲げる焼却ごみ量の減量目標（2017年までに2012年から2.8万t削減）の達成による削減を維持	1万 t-CO2	1万 t-CO2		134%	
	廃棄物発電・熱利用の推進	《廃棄物発電等再生可能エネルギーの導入》 ●駒岡清掃工場の更新に伴う発電効率の向上で発電量が0.2億kWh増加 ・再生可能エネルギーによる発電分の売電、省エネルギーの推進による電力排出係数の改善	0.02万 t-CO2	1万 t-CO2		2%	
	小計				1万 t-CO2	⑤ 2万 t-CO2	65%
わたしたちの取組による削減量（①～⑤）				74万 t-CO2	⑥ 383万 t-CO2	19%	
電力排出係数の影響	《市外への再生可能エネルギーの導入やLNGコンパイルド火力発電への転換などによる電力排出係数の改善》 ・エネルギービジョンで設定している市外分の再生可能エネルギー導入による効果 ・老朽火力発電所がLNG火力発電所に転換（石狩湾新港に新設される3基のLNG火力発電所、出力約170万kW） ・石狩湾新港洋上風力（2020年度春稼働100万kW・効率30%として計算） ・水力発電の新設（京極に新設される3基の水力発電所、出力約60万kW）			38万 t-CO2	238万 t-CO2		16%
	小計				38万 t-CO2	⑦ 238万 t-CO2	16%
合計削減量（⑥+⑦）				112万 t-CO2	621万 t-CO2	18%	

※進行管理上の基準年である2012年の排出量は、既に森林吸収による削減効果を加味した値であることや、現在の森林量を維持するという設定条件から、森林吸収分は合計削減量に含まない。